



岡崎市のデータ活用



岡崎市総合政策部
デジタル推進課

1 まちづくりの現状

公共空間整備期



公共空間活用推進期



民間投資誘導期



都市再生のカギは「まちを歩いて楽しむ人流」
自動車依存度の高い地方都市における「まちなかウォークアブル推進」をスマートシティで支える

2 人流データの活用事例

花火大会警備計画の改定に活用 (3D-LiDAR)



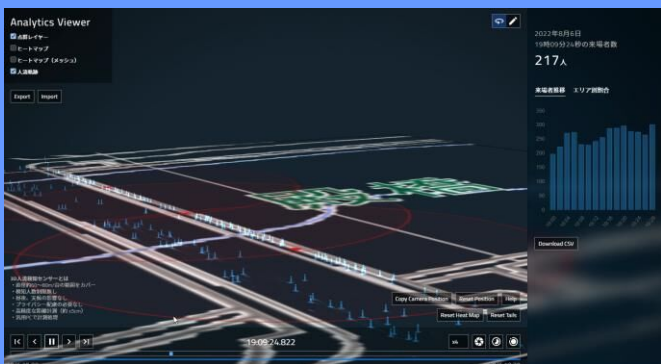
データ取得・分析
混雑解消策の立案



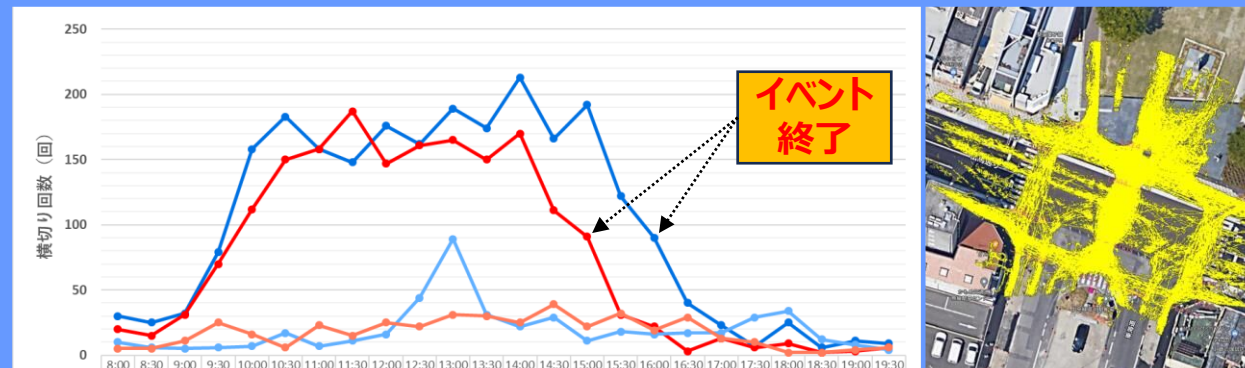
次回警備計画の策定



効果測定

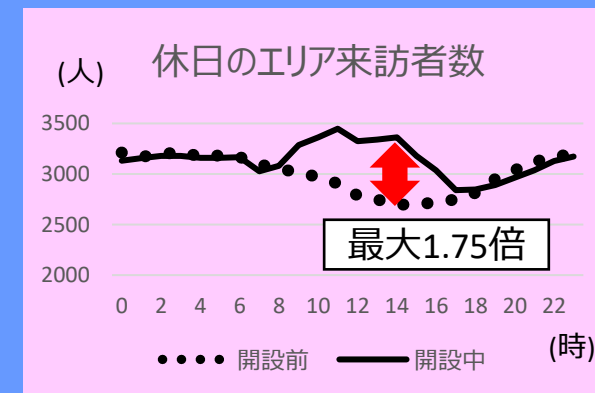
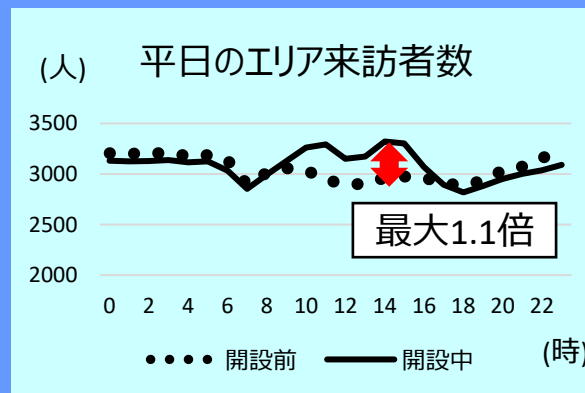


公共空間イベント人流ピークアウト延伸 (人流分析カメラ・3D-LiDAR)



イベント終了以前の人流減を認識→原因特定→対策実施

大河ドラマ館開設による来街者規模の推定 (ビッグデータ分析)



推計による期待と不安の温度調節

3 商店街における出店促進戦略



段階的な出店支援で、地域発の事業者を育てる戦略

4 歩道（のきさき）活用希望者への人流データ提供



参考：人流データ活用事例

イベント人流効果を
地域商店波及へデータ活用

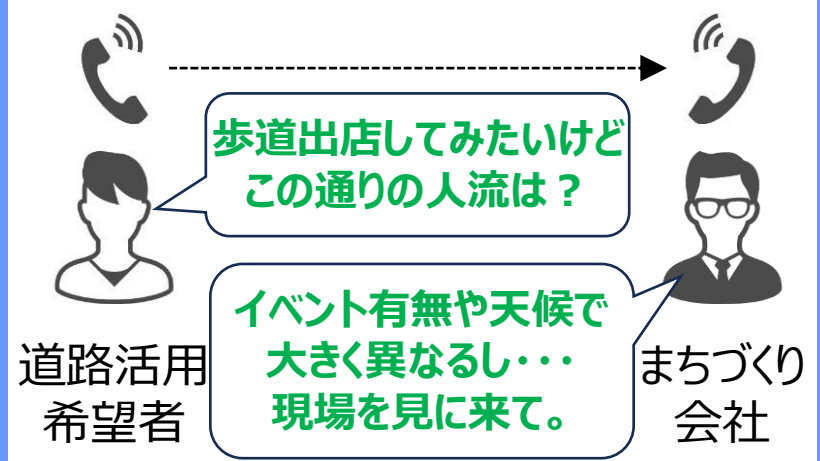


↓
イベント人流を常設カメラ分析
店舗POSデータ分析

↓
新商品開発



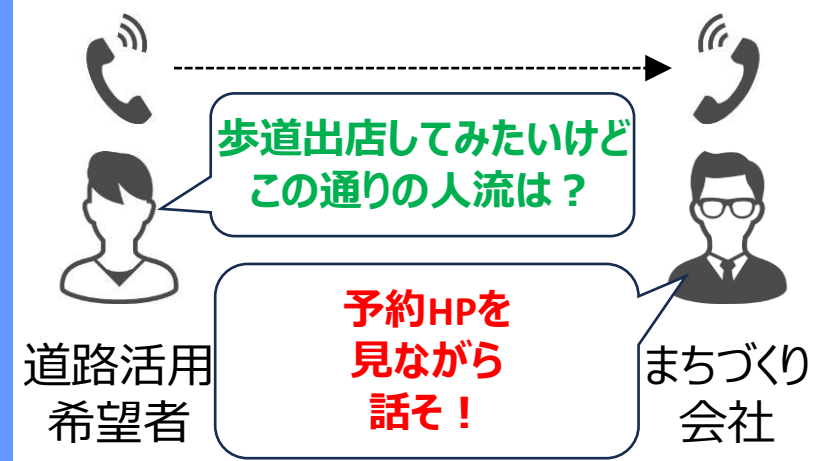
<BEFORE>



集計粒度
検索視点

人流データ × イベントカレンダー × 天候データ

<AFTER>



5 分野横断活用にもむけた「はじめの一步」

ウォーカブルなまちを目指して自分事でまちづくり参画する公共空間活用の各主体

都市再生
推進法人



指定管理者



イベント



市職員



自分たちの企画は
まちに賑わいを
もたらせた？

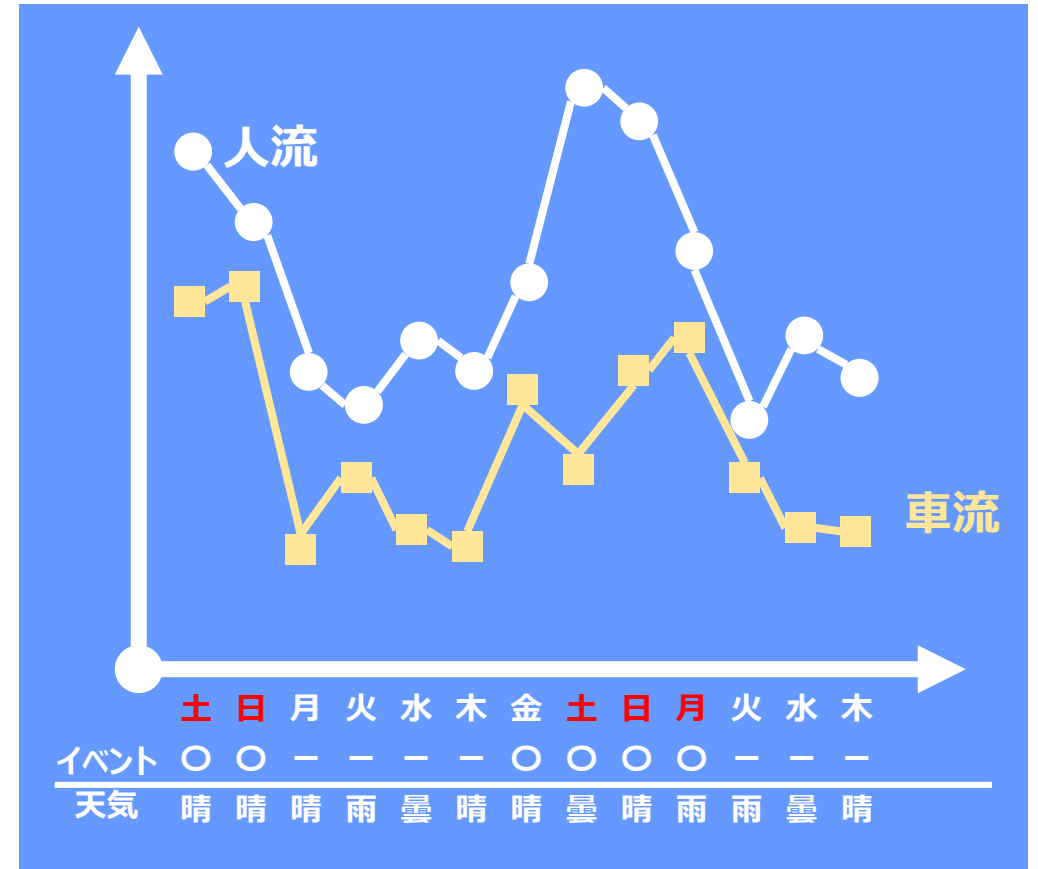
自分たちの企画は
まちに渋滞などの
迷惑かけてない？



集計粒度
活用サイクル

人流データ
×
車流データ
×
イベントカレンダー
×
天候データ

「賑わい増加」と「渋滞緩和」の両立ダッシュボード
分野横断こそ経験と勘では解決不能



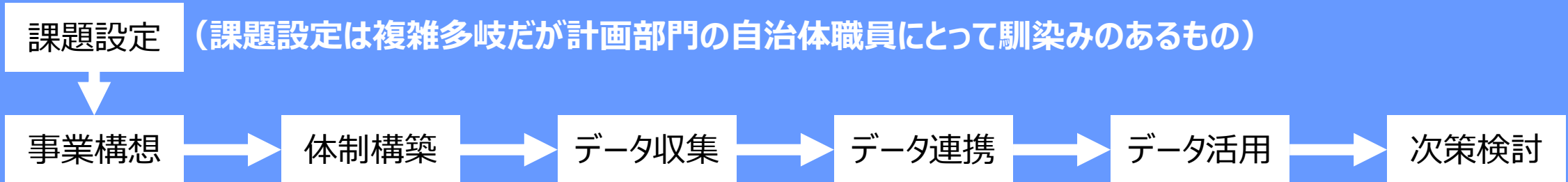
将来像 : 「多様なデータ活用環境」 → 「分野横断のデータ活用アイデア創出」
 第一歩 : 「分野横断課題を設定」 → 「分野横断のデータ活用事例を創出」

6 岡崎市意見

2010年代半ばから全国自治体で培ってきた多分野連携成長の考え方
(地方版総合戦略・SDG s・脱炭素先行地域・デジタル田園都市国家構想)

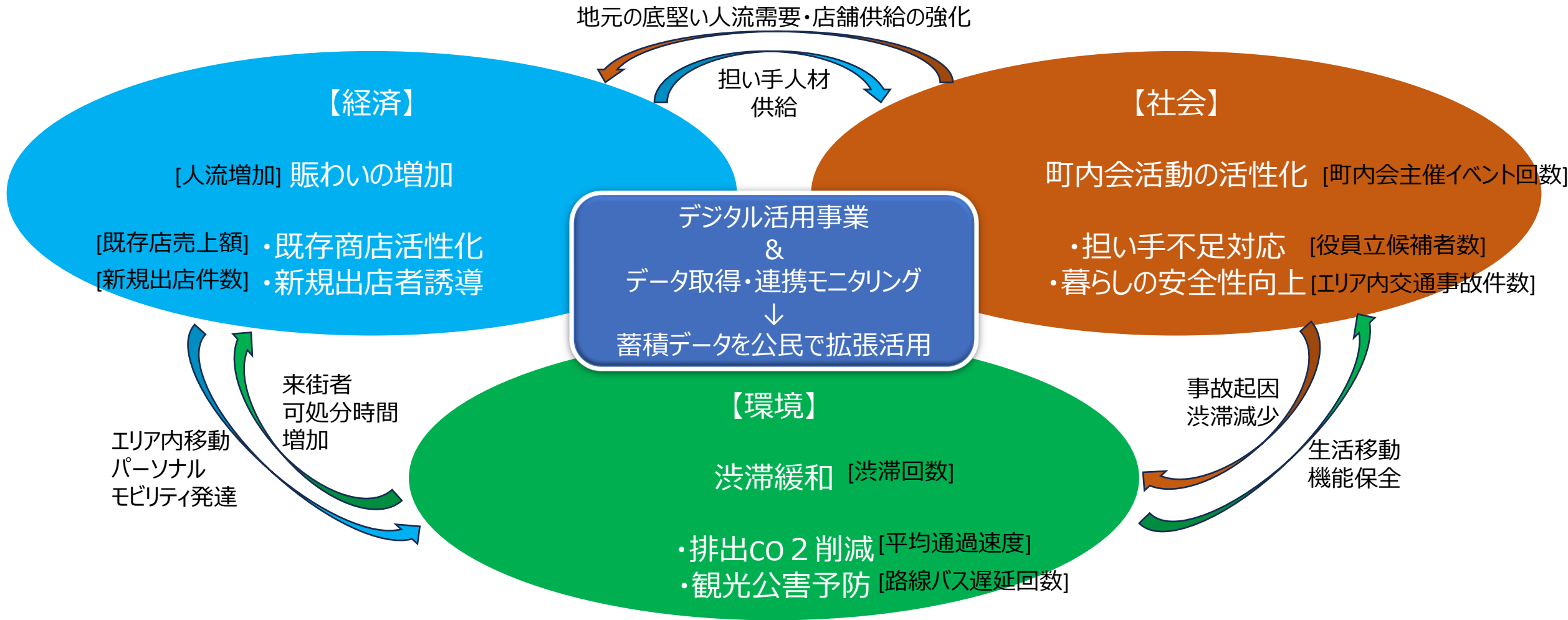
(例)「相乗効果創出orトレードオフ緩和」 × データ活用

自治体現場では、下記フローにて“一部着手済み”や“未着手”の領域が混在しており、まだら模様になっている



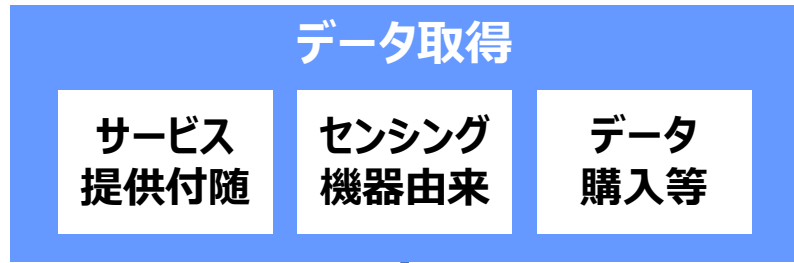
- 課題設定後の各工程やツール（センサー・通信・データ連携・分析ツール）などについて、**段階的に必要な要素を選択できる支援制度構築**により、無理なくデータ連携活用が増えていくストーリーも考えられるのではないか。
- 単年度で全て実装も大切だが、データ連携による“先進事例創出”や“全体の底上げ”はそのほうが近道ではないか。
- 過去から培ってきた**多分野連携成長の思考訓練を実践する場が“データ活用”であり、“EBPM推進”**であると言えないか。
- 段階的な取組は、予算の事前統制が原則の自治体にとって、成果や効果を表現しやすく予算獲得もスムーズと期待される。

参考 1 多分野連携成長の思考例示

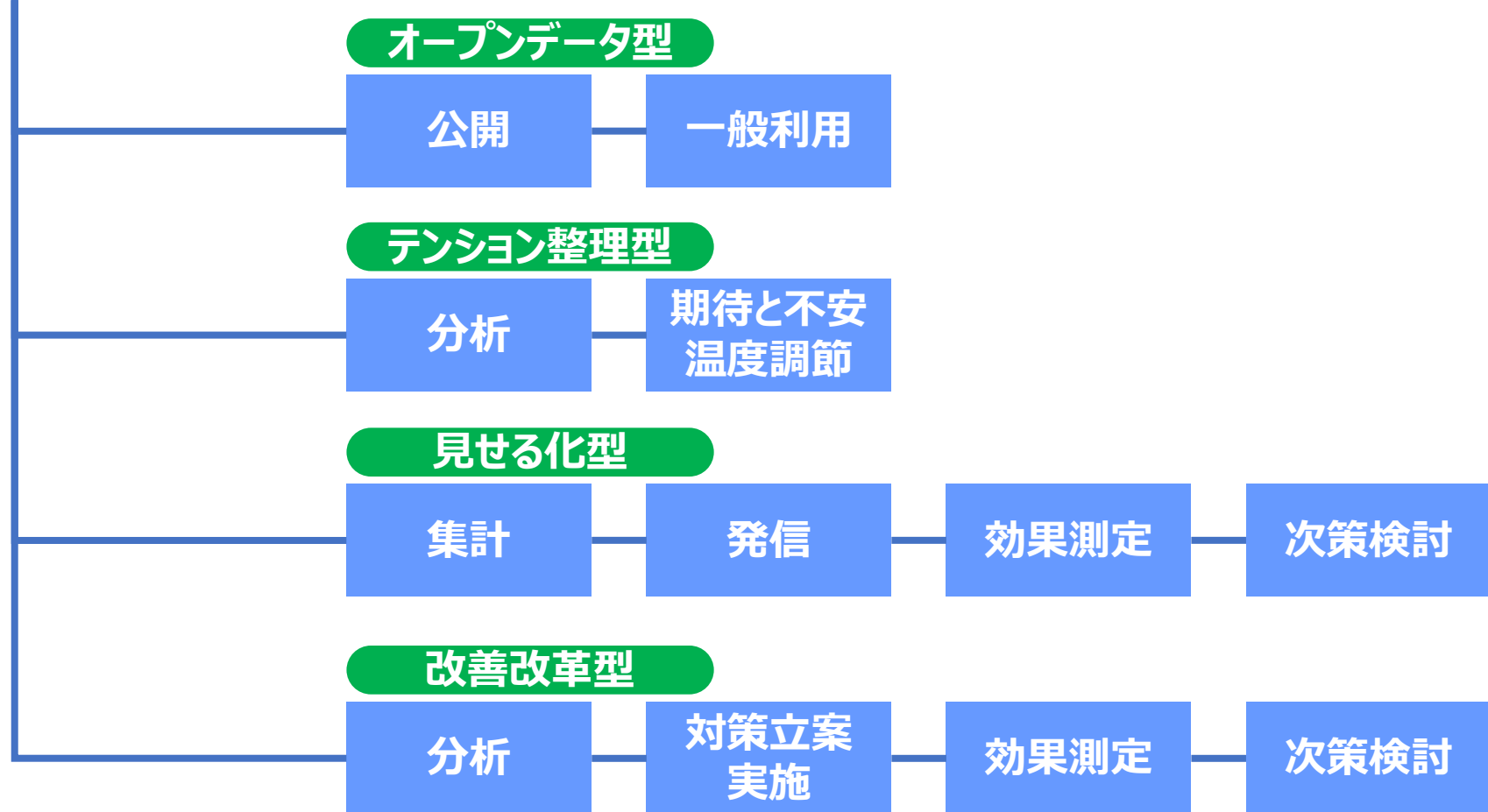


多分野連携成長においては、多分野データを連携してモニタリングすべき指標 [上記黒字] が豊富
現在は統計データ活用が主だが、デジタル活用サービス前提なら短サイクル改善改革が可能で、全体高質化が期待される。

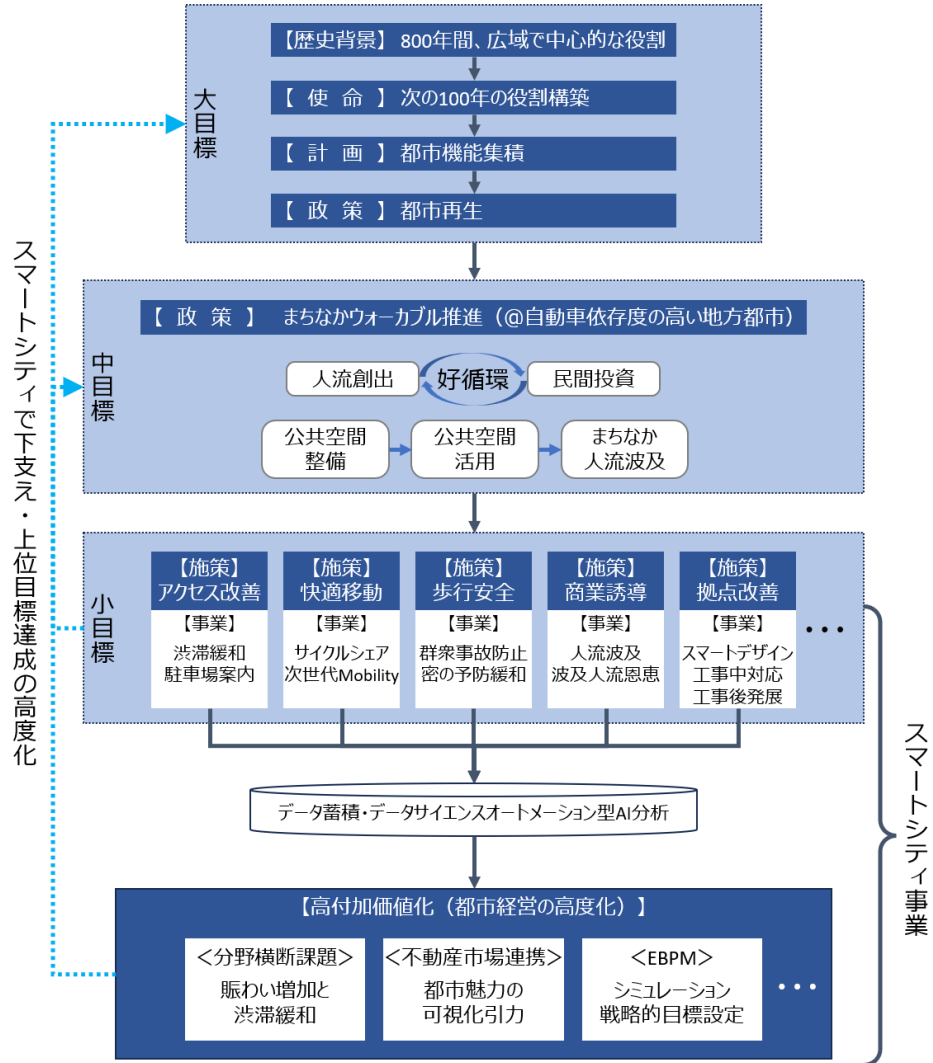
参考2 岡崎市におけるデータ活用の類型考察



これまで岡崎市が経験してきたデータ活用を分類整理した。今後の事業実施で、類型の広がりや集約といった変化・成長を楽しんでいきたい。なお、各類型での活用を高度化させていく要素としては、「リアルタイム性」「分野横断性」「対策の自動化」などが鍵になると想像する。



参考3 岡崎市の目指すスマートシティ



都市再生の全工程支援型スマートシティ

段階①～③：まちを「考える」「つくる」「使う」まで、支え続けるスマートシティ
 段階④：蓄積データを2次利用して多分野の成長を、支え続けるスマートシティ

